

エピソード61
保護者が、僕の話
全く聞いてくれません



大地先生
教職年数4年目の小学校教師



ジュリさん
教師を目指して勉強中



大地先生が、発達障害のような特徴があるお子さんを複数担任した時のできごとをお聴きしたいと思います。

僕が担任している3年生の学級には、発達障害のような特徴があると思えるお子さんが複数在籍しています。

一度の指示でなかなか理解できなかったり、友だちとのトラブルも多くあったりして、どうしたらいいのか悩む毎日です。





保護者との関係はどうでしたか？

はると君の場合は、不適切な行為をしたときに注意をしても、なかなか理解することができませんでした。

さらに、実際とは違うことを保護者に伝えてしまうので、怒った保護者から電話が入ることも多くありました。





その時の保護者はどんな様子でしたか？

担任の僕の話には全く耳を貸さず、我が子の言葉だけを信じて激怒していました。

僕がどのように話しても理解してもらえず、本当に困ってしまいました。





それは大変でしたね。それで大地先生はどうされたのですか？

どうしたらいいかわからず、管理職の先生に相談しました。

すると教頭先生が「ひとりで抱え込まずに、チームで対応しましょう」と提案してくれました。





実際にはどのような対応をしたのですか？

学年団・コーディネーター・養護教諭・管理職がチームになり、それぞれで役割を分担しました。

学年団では、教科の交換授業を行い、複数の目ではると君を見取りました。





それぞれが、必要な役割を担ったのですね。

はい、特別支援教育コーディネーターは、はると君の特性を専門的に把握し、指導について検討していく核になりました。場合によっては、保護者と教育相談も行いました。

養護教諭は、授業中の集中が切れたときにクールダウンの場として、保健室で気持ちを落ち着かせました。





管理職はどんな役割だったのですか

教頭先生は、保護者に学校がチームではると君の成長をサポートしていくことを伝えました。

そして、保護者からのさまざまな不満や要望を聞いてくれました。





はると君や保護者とのかかわりを通して、
大地先生が考えことを聞かせてください。

あのとき勇気を振り絞って、管理職に相談してよ
かったと思います。

「ひとりで抱え込まずにチームで対応しよう」
という一言にすごく安心しましたし、早期対応の
おかげで学級全体が落ち着きました。



ジュリさんの気づき



- 保護者が話を聞いてくれず、怒りをぶつけてくるのはとても辛い経験だと思います。
- でも、こんな先生はたくさんいるような気がします。
- 困ったときは、ひとりで抱え込まず、学校のどなたかに相談してみませんか。

お・し・ま・い

若い先生の保護者支援



大地先生



ジュリさん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーの経験をもとにした架空のエピソードです。>

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)